

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒それぞれの豊かな個性の伸長と人間性を尊重し、志を高く、時代を切り拓く人材を育む学校

～ 「茨西 PRIDE」のもと、茨西につながるすべての人が「TEAM 茨西」として、生徒それぞれの「志をカタチに」する ～

- 【生徒に育みたい力】 ◇ 確かな学力を基礎に、高い志を持ち、グローバル社会を切り拓く力
◇ 生徒が自身に誇りを持ち、社会人として自律できる力
◇ 母校愛を醸成し、地域そして世界の人とつながる力を育む。
- 【教職員に求める力】 ◇ 同僚性を高め、生徒と向き合う力を高める。



2 中期的目標

1. “確かな学力”の育成

- (1) 生徒の学習支援の強化
ア 授業規律の徹底
イ 学習支援体制の構築と外部教育産業の有効利用
ウ 自学自習のハード&ソフトの整備
- (2) グローバル社会への対応
ア EFHS の取り組みを引き継ぐ、英語教育の一層の推進
- (3) 授業の改善
ア 授業評価の PDCA サイクルによる授業改善と教員相互が切磋琢磨できる環境づくり
イ アクティブ・ラーニング (AL) 及び ICT を活用した授業の推進
- ※ 学校教育自己診断 (保護者向け)、授業のわかりやすさに係る肯定回答率、平成 31 年度 60%以上をめざす。(平成 28 年度 : 49%)
※ 学校教育自己診断 (生徒向け)、情報機器を活用した授業、80%以上の維持。

2. 高い志を持ち“社会を切り拓く力”の育成 ▶「志をカタチに」

- (1) 生徒の将来を見据えたキャリアサポート
ア 全方位の進路マップを策定し可視化による、早期の生徒・保護者の進路意識の向上
イ 高大連携やフィールドワーク等によるキャリア意識の醸成
- ※ 第3学年4月調査の進路希望調査の実現率、平成 31 年度 80%以上をめざす。(平成 28 年度 : 71%)
※ 平成 31 年度、4 年制大学への進学率 60%をめざす。(平成 28 年度 : 43%)

3. 生徒が自身に誇りを持って、将来社会人としての“自律する力”を育む ▶「茨西 PRIDE」の涵養

- (1) 自律を促す教育活動の展開
ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上
- (2) 安全安心な学校づくり
ア 人権教育委員会及び生活指導部を中心とした豊かな人権感覚の醸成
イ 教育相談委員会を中心とした相談体制の整備
ウ 交通安全教育や防災教育等を通じた危機管理能力の向上と共に係わる意識の涵養
- ※ 生徒・保護者向け学校教育自己診断「豊かな心・人権感覚の醸成」に係わる質問の肯定回答率 70%以上をめざす。(平成 28 年度 : 62%)

4. 学校・家庭・地域・世界と“つながる力”の育成 ▶「TEAM 茨西」の形成

- (1) 各種 HR 活動・生徒会活動・部活動や国際交流行事を通して様々なつながる力を養う。
ア HR 活動・生徒会活動及び部活動の活性化
イ 国際交流事業の推進
- (2) 中高及び小高連携の推進と地域連携の強化
ア 中高連絡会・地域交流協議会等により連携を強化し、地域のボランティア活動を通じ地域貢献を推進する。
イ 卒業生・保護者・地域の教育に係る人材を発掘し協力体制を構築する。
- (3) 家庭との連携及び PTA 活動の活性化
ア 家庭連絡や意思疎通をきめ細かく行う。
イ PTA 活動の一層の活性化
- ※ 行事に係わる学校教育自己診断の肯定回答率、平成 31 年度全て 80%以上をめざす。(平成 28 年度 : 68%)
※ 部活動への 1 年次当初の加入率、平成 31 年度 80%以上をめざす。(平成 28 年度 : 70%)
※ 保護者への連絡及び意思疎通の項目の肯定回答率、95%以上を維持する。(平成 28 年度 : 94.6%)

5. 教職員が生徒と“向き合う力”の強化

- (1) 教職員がチームで生徒と向き合う
ア 教職員の力を伸ばすための組織的・計画的なプランの策定及び実施
イ 職員研修の充実
- ※ 教職員向け学校教育自己診断において全ての項目で肯定回答率 90%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見																											
<p>【生徒アンケート結果より】</p> <p>① 質問全 13 項目中、新規の 2 項目を除く 11 項目の内 7 つの項目において前年度より肯定的回答のポイントを増やした。昨年度も 8 / 11 項目でポイントを増やしている点より、計画が概ね順調に進んでいると言える。</p> <p>② 特に 8 ポイント以上アップした『悩みを相談できる先生がいる』と『命の大切さや社会のルールを学ぶ機会』の 2 つの項目については、生徒に育みたい力である“自立する力”の涵養に向けて大きな励みとなった。</p> <p>③ ポイントを落としたのは 2 項目で、『授業における情報機器の利用』と『他の先生が授業見学に来る』である。前者は、1・3 年生が 80%を超えているにも係らず 2 年生だけが 60%代である点の検証が必要である。また後者については、バディシステムの授業見学数が、3 学期に増える傾向にあるため、アンケート実施時期による変化が予想される。</p> <p>④ ポイントが前年度同じである 2 項目は、『学校に行くのが楽しい』の 71%、『修学旅行が楽しいように工夫されている』の 78%が肯定回答である。前者については、8 割を超えるよう教職員一同、取り組まなければならない。しかし、目先の楽しさを求めるのではなく、将来を切り拓く人材の育成に主眼をおいていることを忘れてはならない。後者については、海外修学旅行の行き先が、昨年よりグアムから台湾に変更になりポイントを増やしたと考えられるが、本年度、実施した 2 年生は、1 年時 63%であったが 79%に上がっている点より、大きな問題は感じられない。</p> <p>⑤ 今年度からの新項目『授業規律』については肯定回答 88%で、生徒は概ね真面目に取り組んでいると考えられる。『いじめ対応』に係る肯定回答は 64%であるが、実際、関わらないと見えてこない部分があるため、来年度以降もアンテナを高くし早期の発見と対応に努めたい。</p> <p>【保護者アンケート結果より】</p> <p>① 先ず特筆すべきは、アンケート回収率で、昨年 65%、本年は 71%に伸ばすことができた。これはアンケート中の『学校が家庭連絡や意思疎通をきめ細かく行っている』の肯定回答 96%からも伺うことができ、本校が保護者と連携を密にした学校運営を行っていると言える。</p> <p>② 質問全 9 項目中、新たな 1 項目を除いた 8 項目の内 7 つの項目において肯定的な回答がポイントアップしており、昨年度、8 / 8 全ての項目のポイントが向上した点も含めて鑑みると、計画通りと進んでいると言っても過言ではない。</p> <p>③ 3 ポイント以上伸ばした項目は、『授業の分かりやすさ』（“確かな学力”）、『適切な進路指導』（“未来を切り拓く力”）、『豊かな心、人権感覚の涵養』（“自律する力”）、『保護者の各種行事への参加』（“つながる力”）で、『育みたい四つの力』をバランス良く育てることができたと言える。</p> <p>④ ポイント落とした項目は『学校へ行くことを楽しみにしている』で、1 ポイントのダウンである。生徒アンケート同様、真摯に受けとめ、方策を練らなければいけない。</p> <p>⑤ 新項目である『いじめ対応』は 74%の肯定回答があり、自由記述の欄に、「聞いたことがない」「分からない」等の意見が多くみられた。今後も保護者との連携を強めながら、一層の早期対応に努めたい。</p> <p>【教職員アンケート結果より】</p> <p>① 学校協議会で指摘のあった回収率 100%をめざしたが 81%に留まった。(昨年度 73%)</p> <p>② 質問全 9 項目中、新たな 2 項目を除いた 7 項目の内、</p>	<p>学校協議会委員：委嘱委員（敬称略）</p> <table border="1" data-bbox="808 350 1575 765"> <tr> <td>会長</td> <td>山口 武史</td> <td>立命館大学 教職支援センター</td> </tr> <tr> <td>副会長</td> <td>谷 郁夫</td> <td>地域代表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鷲塚 誠</td> <td>茨木市立西陵中学校 校長</td> </tr> <tr> <td></td> <td>山田 咲生子</td> <td>代々木ゼミナール大阪南校</td> </tr> <tr> <td></td> <td>田原 正也</td> <td>地域代表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>長澤 あずさ</td> <td>保護者代表</td> </tr> <tr> <td colspan="3">校内出席者</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">校長、教頭、事務長、首席 2 名（3 年学年主任兼務）</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">進路指導主事、1 年学年主任、2 年学年主任、3 年学年主任</td> </tr> </table> <p>◆ 平成 29 年度 大阪府立茨木西高等学校 第 1 回 学校協議会（記録概要） H29. 6. 21 開催</p> <p>内容：◇ 協議会前に 6 時間目の授業（1 年書道、1 年化学基礎、3 年日本史 α）を見学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校長挨拶 2. 協議会委員並びに事務局員の自己紹介 3. 協議 <ol style="list-style-type: none"> ①授業見学を終えて ②平成 29 年度学校経営計画について ③その他 <p>「協議詳細」</p> <p>①授業見学を終えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室が暑かった。⇒ できればもっと設定温度を下げたいが、基本設定が決まっている。 ・生徒が気軽に質問している姿に好感を持った。 ・教室の雰囲気は整然としていた。机の配置もそろっていた。 ・すべての授業で使用していたプロジェクターとスクリーンは大変便利に感じた。 ・化学は ICT の活用、プリントの工夫、映像の活用と、分かりやすい授業だった。書道は、和んだ雰囲気で見学しやすい授業だった。日本史は、プールの後の授業だったが、生徒は静かに熱心に聞いていた。教員の話し方が丁寧で、よい印象だった。 ・授業マイスターの授業では、毎回前回の授業の振り返りをペアワークでさせていて、知識の定着を図っている。 ・高校におけるアクティブ・ラーニングはどのようになっているか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 様々な場面で、80 字から 120 字で文章にまとめて行くことを勧めている。 ⇒ 生徒を能動的に動かす時間を積極的にとるように若手を中心に推進している。それに刺激を受けてベテランも頑張っている。 ・中学校では AL はどうなっていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 茨木市ではプロジェクターが全教室に配備されている。小学校も 8 年前から大きく変わっており ICT 化が急速に進んでいる。 ・教員の教え方で差が出ることはあるか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 平均点に差が出ることはあるが、平常点等で調整している。教員のスキルアップも当然図っている。 ・校外の公開授業の案内などはあるか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 校外に出ることは時間的ロスが大きく強く推奨はしていない。代わりにバディシステム等を活用し校内研修を充実させることで対応している。 <p>②平成 29 年度学校経営計画について<校長より学校教育計画の要点を整理した資料による説明後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車のマナーについて、教員が上から指導するだけでなく、生徒の中からマナーを守ろうとする動きが出てきてよいと思うが、以前に比べてマナーは本当に良くなっている。 ・今回、交通安全指導が下校時対象になっているが。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 登校時のマナーがずいぶん良くなったので、今回は下校指導に重点を置いた。 ・ボランティア活動はどうなっているか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ クリーン大作戦、地域のお餅つき、敬老会への出し物、食育ヤングリーダーの活動等、各種行事で活動している。 ・ベル着、机上整理が定着していることはすばらしい。 ・入学時の大学進学希望が 7 割ということだが、卒業時の進路の割合は。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 大学 50%、短大 10%弱、専門学校 25%、浪人等 10%弱、就職は少数。 ・保護者を巻き込んだ指導とは。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 保護者への個別郵送、メール等で保護者にこまめに情報を発信している。 ・保護者の観点で進路についてはどう感じているか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 本人の進路に関する準備のスタートが遅い。もう少し早めに進路へ意識が向いてくれればと思う。早い段階で 3 年の進路講演会でいただいた進路チャートのようなものがほしい。 ⇒ 1 年次から計画的に進路 HR を実施している。本来ならばそこで使用している膨大な資料を保護者とも共有したいのだが、散逸等のおそれもあり、保護者に返し切れていない。 ⇒ 2 年次、修学旅行説明会に併せて、進路講演会を行っている。内容は、進学に関するマネープランで、具体的には奨学金関係の手続き等の詳細となっている。毎年、たいへん好評をいただいている。 ・大学キャンパス巡り等の企画はあるか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ フィールドワークの実施で代替している。個別のオープンスクール等の参加は、進路先がきわめて多様であるため、生徒の自主性に任せている。 ・「疲労感の払拭」についてだが、まさにこれは必要だと感じる。学校現場は、「スクラップ&ビルド」ではなく、「ビルド&ビルド」で余裕がなくなっているのが現状。大学の優秀な卒業生が中学校の教員となったが、野球部の顧問になり、教材研究も満足にできない状況に陥っている例も聞くが、高校はどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 本校はあまり問題になっていないが、中学校で特にクラブ活動が負担になる側面も伺える。 <p>③その他</p> <p>学校側の参加者より一言ずつコメントあり。</p> <p>◆ 平成 29 年度 大阪府立茨木西高等学校 第 2 回 学校協議会（記録概要） H29. 10. 11 開催</p> <p>内容：1. 校長挨拶</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 近況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアからの留学生を 10 日間受け入れた。 ・ホームステイ受け入れを依頼できるかという心配もあったが、無事終了した。 3. 協議 <ol style="list-style-type: none"> ①平成 29 年度「学校経営計画」進捗状況について ②平成 30 年度「使用教科用図書」の決定について ③その他 	会長	山口 武史	立命館大学 教職支援センター	副会長	谷 郁夫	地域代表		鷲塚 誠	茨木市立西陵中学校 校長		山田 咲生子	代々木ゼミナール大阪南校		田原 正也	地域代表		長澤 あずさ	保護者代表	校内出席者				校長、教頭、事務長、首席 2 名（3 年学年主任兼務）			進路指導主事、1 年学年主任、2 年学年主任、3 年学年主任	
会長	山口 武史	立命館大学 教職支援センター																										
副会長	谷 郁夫	地域代表																										
	鷲塚 誠	茨木市立西陵中学校 校長																										
	山田 咲生子	代々木ゼミナール大阪南校																										
	田原 正也	地域代表																										
	長澤 あずさ	保護者代表																										
校内出席者																												
	校長、教頭、事務長、首席 2 名（3 年学年主任兼務）																											
	進路指導主事、1 年学年主任、2 年学年主任、3 年学年主任																											

4項目がポイントアップ、2項目がダウン、1項目が変化なしとなった。

- ③ ポイントを伸ばした4項目の内、『教育相談体制の整備』が7ポイント、『教員間の話し合い』6ポイント、この2項目が大きく数字を伸ばすことができた。生徒からの相談により丁寧に応えていけるような運用を図りたい。また、教職員間の風通しを良くし、新指導要領に向けた情報収集や情報提供、教科・分掌での話し合いをより活性化していきたい。
- ④ ポイントを落とした項目は、昨年11ポイント伸ばした『きめ細かい進路指導』で7ポイント下落、同じく昨年9ポイント伸ばした『カウンセリングマインドを取り入れた生活指導』で1ポイント落とした。昨年度、大きく伸ばした分の反動が数字として表れたのかもしれないが、上の③で相談体制が整備された評価されたにも係わらず、活かせていない状況が見えてくる。次年度、体制の有効な運用を進めていきたい。
- ⑤ 新しい2つの項目である『いじめに関する体制整備と迅速な対応』は86%、『アクティブ・ラーニングの取り組み』の項目は88%が肯定的な回答を示しており、両質問とも概ね満足とは言えるものの、前者における体制のより一層の充実と、後者における研究授業の促進等の取り組み等で、100%に近づけていきたい。

「協議詳細」＜校長より「学校経営計画」の進捗状況等の報告後＞

- ①平成29年度「学校教育計画」の進捗状況
- ・実力テストのA1～D3のランクとは何か。
 - ⇒ 使用した実力テストの評価基準
 - ・実力テストの成績はグラフにすると、いわゆる「二瘤ラグダ」的になっているのか。
 - ⇒ その傾向にある。二番手層は実力が伸びている。特に英語は伸びており、このまま伸びれば近大レベルに手が届くのではないかとという生徒が70名程度いる。
 - ・D3層への手立てはあるのか。
 - ⇒ 1年次は英語・数学で考查毎に入れ替えの到達度別授業を取り入れていく。
 - ・パディシステムで、他教科の授業を観ることはあるのか。
 - ⇒ むしろ、教科を超えて見学してほしいとお願いしている。
 - ・ICT教材の共有化は進んでいるのか。
 - ⇒ 進んでいる。ベテラン教員が若手の教員に教えてもらうということもある。
 - ・部員確保に苦慮しているというが、何か原因があるのか。
 - ⇒ アルバイトをする生徒が増えたのではないかと考えられる。(未検証) 仮入部の機会を増やしても、効果はない。入部しても、すぐにやめる。
 - ・傾向として、生徒の気質が変わってきているのではないのか。
 - ⇒ 中学校の部活動などからの燃え尽き症候群の生徒もいるのではないのか。中学校の部活動加入率は80%を超えている。スポーツの良さをアピールしても効果はないようだ。部活動にも参加せず、かといって、アルバイトもせず、という生徒が増えるのも心配。最近では、アルバイト先も人手が足りないため、アルバイト生を厚遇する傾向にあるので、厳しい部活動をするより楽しいと感じるのではないのか。
 - ・アルバイト等の調査は実施しているのか。
 - ⇒ 総合的に生活指導で行っている。
 - ・教員向けの研修とはどのようなものか。
 - ⇒ FWとして桃谷コリアンタウンへ行き、ヘイトスピーチ等について学んだ。7月に40人程度で実施した。
 - ・体育祭アンケートの3年生の満足度100%はすごい
 - ⇒ 雨での順延はあったが、当日は好天に恵まれたことも影響していると思われる。
 - ・オーストラリアからの留学生受け入れはどのように行われたのか。
 - ⇒ 留学生は、理科の実験、芸術、家庭科、体育などについてはホスト生徒と一緒に授業に参加。メンバーは、現地で日本語を学んでいる生徒たちだったので、比較的交流のコミュニケーションをとりやすかった。今回の受け入れの経験から、次年度、オーストラリアの語学研修に参加したいという生徒が殺到するのでは、とうれしい心配をしている。
 - ・実際にホストファミリーをしてみてどうでしたか。
 - ⇒ いい経験をさせてもらった。以前にも受け入れた経験があったので、その時の経験も生かすことができた。留学生は、授業以外でも、友人達と一緒に行動し、楽しそうだった。
 - ・受け入れが終わった後、何かそれまでと変わったことなどあったか。やったことに対する効果・成果を問われる時代なので興味深い。
 - ⇒ 海外修学旅行・海外語学研修や今回のような交流に係った生徒は、確実に英語学習に関するモチベーションを上げている。
 - ・部活動をしている生徒の学習成績等はどうか。
 - ⇒ 部活動をしている生徒のほうが好成績という傾向がある。教育雑誌等の調査によると、毎日1時間30分程度の部活動は学習にも効果的だというデータもある。現役生は部活動をしている生徒のほうが学習成績は伸びる。また、既卒生でも部活動をしていた生徒のほうが学習成績は伸びる。
 - ・同窓会の様子はどうか。
 - ⇒ 外部業者による名簿管理など正常化した。今後は通信費の面から、Webを利用する方法を考えている。メール会員のような形で運営しているところもある。やっと同窓会のHPができた。
- ②平成30年度「使用教科用図書」の決定について
- ・教頭より資料説明。
 - ・協議会委員で教科用図書閲覧。
- ③その他
- 学校側の参加者より一言ずつコメントあり。

◆ 平成29年度 大阪府立茨木西高等学校 第3回 学校協議会（記録概要） H30. 2. 20 開催

- 内 容：1. 校長挨拶
2. 近況報告

- ・オーストラリア Sacred Heart College との交流 10日間のホームステイ受け入れ オーストラリアからの生徒もホストファミリーもお互いにより経験ができたとの感想
- ・41期生の台湾への修学旅行実施（11月15日～18日）
- ・1年進路フィールドワークを実施
(佛敎大学・京都産業大学・大谷大学・龍谷大学・関西外国語大学・甲南大学等を訪問)
- ・「台中市立西苑高級中学」訪日団との交流会実施（12月13日）
- ・無線LANを整備した。(当面は教員のみ使用)
- ・2月18日(日) オープンスクールを実施

3. 協議

- ①平成29年度「学校教育自己診断」集計結果 について
- ②茨木西高等学校「生徒心得」(生徒手帳から抜粋) について
- ③平成29年度「学校経営計画及び学校評価」達成状況(案) について
- ④平成30年度「学校経営計画及び学校評価(案)」について
- ⑤その他

「協議詳細」

- ① 成29年度「学校教育自己診断」集計結果 について＜教頭より、分析・説明後＞

【生徒版について】

- ・生徒の授業に取り組む態度について、肯定的意見が、少し多いのではないのか。
- ⇒ 生徒たち自身は、まじめな態度で授業を受けているつもりかもしれない。
- ・いじめ対応に係る数字は、どのように分析しているのか。
- ⇒ まだなんとも言えない。今年度は、従来の調査(年2回)に加えて新たに「いじめに関するアンケート」を実施。丁寧に対応しているつもりだが、今のところ重篤なものはない。
- ・悩みの相談について、肯定的な回答が少ない。
- ⇒ 思春期の生徒なので、悩み相談は友人にという割合のほうが多いのではないのか。

【保護者版について】

- ・アンケート回収率が71%は素晴らしい。
- ・授業について、保護者が答えるのは難しいのではないのか。教える授業担当者によっても、わかりやすさというのは変わってくるのでむずかしい。
- ⇒ 必ず入れるべき設問である。ではどのような設問なら答えやすいのか。
- ・家庭での会話で学校での学習の話をするか。なら答えやすい。
- ・中学校の学校診断では「わからない」という選択肢があり、その割合が高くなる。
- ・中学校では、設問数が60問くらいある。
- ・回収率を上げるためにも、絶対に聞かねばならないものだけに絞っている。
- ・生徒版の授業に係る回答と、保護者版の回答が乖離していることに違和感を感じる。「まじめに授業を受けているのに、

府立茨木西高等学校

	<p>わからない」ということ2になってしまう。実際は、この数字どおりではないと思うが、数字上はそのようになっている。また、塾ではどうか。</p> <p>⇒ やはり乖離するのではないかと思う。予備校では講師ごとにアンケートを行い、フィードバックを行っている。</p> <p>・②の他にも、+αの設問があってもよいのではないか。</p> <p>【教職員版について】</p> <p>・数年の蓄積データを、外部委託等で分析してみるのもよいかもしれない。</p> <p>②茨木西高等学校「生徒心得」（生徒手帳から抜粋）＜教頭よりの説明後、意見交換＞</p> <p>・携帯電話の扱いはどのようになっているのか。</p> <p>⇒ 授業中は使用禁止が原則。審査中は、不正行為やアラーム音の心配があるので、持込禁止の方向で指導している。その際、鍵のない個人ロッカーに保管して平気な生徒が多く見受けられるので、次年度入学生からは鍵付きロッカーに変更する。</p> <p>・服装規定が、かなり細かく記述されているようですが。</p> <p>⇒ セーターについての規定が多いのは、指定のものを作っていないからである。</p> <p>・指定のセーターがないということで、高額なブランド物を着用するようなことはないのか。</p> <p>⇒ 今の生徒は、ブランド志向はとくにないように思われる。むしろ、制服に無頓着な生徒も見受けられる。</p> <p>・生徒によっては、携帯電話の預かり指導に備えて、2機持っている生徒もあるのではないか。</p> <p>⇒ 2機持っていることもあるだろうが、預かり指導の場合は、そのとき触っていた携帯電話を預かることにしている。また、預かり規定徹底して指導している。</p> <p>平成29年度「学校経営計画及び学校評価」達成状況（案）について＜校長より説明後、意見交換＞</p> <p>・英検受験者数が増えている。</p> <p>・3年生の保護者としては、進路相談の機会が複数回あればよかったと感じた。また、具体的な説明があればよかった。</p> <p>・進学にかかる費用等の説明会はあるのか。</p> <p>⇒ 2年生の修学旅行説明会（現在は10月）の機会に、「進学マネープラン」ということで、講演をお願いしている。また、3年の4月に保護者向けの進学説明会を行っているが、今後、もっと早めの対応も考えなければならぬかもしれない。</p> <p>・進学にかかる費用として、さまざまな奨学金や助成を考えていくとよいと思われる。</p> <p>・最近の新聞報道によると、大学等の授業料として借りた奨学金の返済が滞るといふ事例が多いようだ。</p> <p>・返済が滞り、返済自体を断念する確率は他のローンと比較しても高いようだ。</p> <p>・今年度の自己評価の中で、△がついている部活動の取り組みについて、何か対策はあるのか。</p> <p>⇒ 次年度、部活動の体験入部期間を長くし、本校ではアルバイトは禁止であるということをもっと強く、生徒に伝えていく方針である。</p> <p>・「確かな学力」について、取り組みの点では、評価は高いが、実際の学力はどうか。</p> <p>⇒ 成績を度数分布にすると、どうしても、「2コブ」になる。これを改善していかなくてはならないと考えている。勉強したい、という気持ちをバックアップしていくことが大切だと考えている。（代ゼミ英語講習の継続実施等）</p> <p>④平成30年度「学校経営計画及び学校評価（案）」について＜校長より説明後、意見交換＞</p> <p>・教員を目指す学生が、教育実習に行つて教員の働きかたをみてショックを受けたり、新任の教員が夜遅くまで仕事をしたりしている例もある。⇒本校では、多忙を同僚間の協力でなんとか乗り切っている。</p> <p>⑤の他になし</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力	<p>(1) 生徒の学習支援</p> <p>ア・授業規律の徹底</p> <p>イ・学習支援体制の構築</p> <p>・教育産業の有効利用</p> <p>ウ・自学自習の環境整備</p> <p>(2) グローバル社会への対応</p> <p>ア・英語教育の推進</p> <p>(3) 授業改善</p> <p>ア・PDCAサイクルによる改善</p> <p>・教職員が切磋琢磨できる環境づくり</p> <p>イ・アクティブラーニングの推進</p> <p>・ICT活用推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ベル着、机上整理等、聞かせる態勢づくりの徹底とほめる授業の実施</p> <p>イ・実力テストの結果より、チームとして取り組む、e-ラーニングを活用したボトムアップ</p> <p>・外部教育産業を利用した講習の充実。</p> <p>ウ・自習室及び質問コーナーの整備</p> <p>(2)</p> <p>ア・英検受験へのチャレンジを推奨</p> <p>(3)</p> <p>ア・授業アンケートの振り返りによる改善</p> <p>・バディシステムによる活発な授業見学</p> <p>・授業マイスターによる交流の活性化</p> <p>イ・AL研修及び教授法の紹介</p> <p>・ICT研修及び利用法の紹介</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業規律に関する新しい質問を設け達成率80%以上（新規）</p> <p>イ・実力テスト D3、D2 レベルの生徒数の減少（新規）</p> <p>・進学講習への参加者数の増加（H28：74名）</p> <p>(2)</p> <p>ア・英検受験者数の増加（H28：174名）</p> <p>(3)</p> <p>ア・教員の振り返りシート提出と授業改善に係わる面談の実施</p> <p>・バディシステム利用数120回以上を維持</p> <p>・授業マイスター（前後期）の指名と有効活用</p> <p>イ・ALに係わる研修及びニュースの配信とALに係わる新しい質問を設け達成率70%以上（新規）</p> <p>・ICTに係わる研修及び利用率80%以上を維持（H28：80%）</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業規律を守ると答えた生徒86%（◎）</p> <p>イ・D3：6→13名、D2：32→24名/A3：0→1名、B1：1→5名（○）</p> <p>・進学講習参加者135名（◎）</p> <p>(2)</p> <p>ア・英検受験者数225名（◎）</p> <p>(3)</p> <p>ア・教員の授業振り返りシート全員提出済。面談を随時実施（○）</p> <p>・バディ（1/30現在106回）</p> <p>・マイスター指名済、マイスター授業の見学を奨励（○）</p> <p>イ・アクティブラーニングに取り組んでいる教諭88%（◎）</p> <p>・ICT機器の活用率77%（△）</p>
社会を切り拓く力	<p>(1) キャリアサポート</p> <p>ア・全方位の進路マップの策定及び進路実現</p> <p>・進路に係わる早期の意識づけ</p> <p>イ・キャリア意識の醸成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全方位の進路マップの策定及びガイダンスに強化による</p> <p>・マップ及びスケジュール等の早期配布</p> <p>イ・高大連携の強化及び見直し</p> <p>・フィールドワーク等を通しての進路意識の強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全方位の進路マップの完成</p> <p>・マップ及びスケジュール等を保護者と早期に共有し、学校教育自己診断「進路情報の提供」及び「進路を考える機会」の項目の肯定回答率70%以上（H28：共に65%）</p> <p>イ・高大連携に係わる生徒の感想</p> <p>・フィールドワーク等に係わる生徒の感想</p>	<p>(1)</p> <p>ア・2月完成</p> <p>・「進路に係る情報提供」65%、「進路を考える機会」64%（△）</p> <p>イ・『自分の進路決定に直接役立った。』等、概ね良好な回答を得た（○）</p> <p>・『進路を考えるよい機会になった』等、概ね良好な回答を得た（○）</p>

府立茨木西高等学校

自律する力	<p>(1) 自律を促す教育活動 ア・基本的な生活習慣の確立 ・規範意識の向上</p> <p>(2) 安全安心な学校 ア・人権感覚の醸成 イ・教育相談体制の整備 ウ・交通安全指導の徹底 ・防災教育の強化</p>	<p>(1) ア・遅刻防止指導の徹底 ・挨拶の徹底 ・清掃の徹底</p> <p>(2) ア・茨西人権スタンダードの策定 イ・教育相談体制の整備 ウ・新一年生早期の交通安全指導 ・保護者、地域と連携した通学安全指導の継続 ・防災訓練を通じた共助意識の涵養</p>	<p>(1) ア・遅刻者数 10%ダウン (H28: 4029) ・部活動の部員がフラッグシップとなるための部活総会やリーダー研修の実施 (新規) ・校内美化の取り組みの実施 (新規)</p> <p>(2) ア・人権スタンダードの完成と実施 ・生徒の相談に係わる肯定回答率 10%アップ (H28: 30%) イ・4月に外部講師を招いた交通安全講話を実施 ・教科保健において交通安全教育を早期に実施 ・通学安全指導の年6回実施と下校指導の実施 ・防災訓練の実施</p>	<p>(1) ア・遅刻者数、12月時点 3126名 ・部員確保に苦慮し、勧誘活動を中心とした取り組みとなった (△) ・各清掃区域の掃除の徹底により、保護者から美化に関する感想は概ね良好 (○)</p> <p>(2) ア・人権フィールドワークを実施、次年度も継続の予定 (○) ・生徒相談に係る肯定回答率 38% (○) イ・実施済み (○) ・保健の授業で4月に実施 (○) ・通学安全指導及び下校指導実施済 (○) ・防災訓練実施済 (○)</p>
つながる力	<p>(1) HR 活動、生徒会、部活動の活性化 ア・HR 活動の活性化 ・生徒会活動の活性化 ・部活動の活性化 イ・国際交流事業の推進</p> <p>(2) 小中及び地域との連携強化 ア・中高連携の強化 ・地域連携の強化 イ・同窓会活動始動への支援 ・外部の教育に係わる人材発掘</p> <p>(3) 保護者との連携強化 ア・きめ細かい家庭との意思相通 イ・PTA 活動のより一層の活性化</p>	<p>(1) ア・計画的ロングホームルームの策定 ・生徒主体の生徒会活動 ・部活動参加生徒数の増加 イ・台湾修学旅行の成功 ・オーストラリア短期留学の受け入れ成功 ・海外高校生訪日の受け入れ</p> <p>(2) ア・連携3校との連携協議会の開催と連携強化 ・地域交流協議会の開催と地域行事への参加 イ・同窓会活動始動による同窓会人材バンクの設立及び現役支援のスタート</p> <p>(3) ア・メール配信・封書連絡及び担任・顧問との連絡を密に取る。 イ・PTA 活動のより一層の活性化</p>	<p>(1) ア・年間ロングホームルーム計画の完成 ・行事における満足度 73%以上 (H28: 68%) ・一年の部活動加入率 75%以上 (H28: 70%) イ・台湾修学旅行の満足度 80%以上 (新規) ・オーストラリア短期留学受け入れに係る肯定回答率 70%以上 (新規) ・海外高校生の受け入れに係る生徒の感想</p> <p>(2) ア・連携3校との連絡会及び出前授業、研修会等の交流の実施 (新規) ・穂積及び春日丘小学校区の行事へのボランティア参加に係る生徒の感想 イ・同窓会人材バンクの募集スタート (新規) ・現役生徒への同窓会による支援スタート (新規)</p> <p>(3) ア・保護者への情報伝達に係わる肯定回答率 95%以上を維持 (H28: 95%) イ・PTA 実行委員会での肯定的な意見</p>	<p>(1) ア・学年主任会議で調整の上実施 (○) ・体育祭 70%、文化祭 74%、球技大会 75%の肯定回答、平均で 73% (○) ・部活加入率約 60% (△) イ・修学旅行アンケートの肯定回答率 86% (○) ・オーストラリア短期留学生受け入れ肯定回答率 86% (◎) ・非常に好意的な感想 (○)</p> <p>(2) ア・西中学 10月、西陵中学 11月と1月に前事業を実施 (○) ・概ね良好な感想 (○) イ・次年度、同窓会総会で発案予定 (△) ・2年生向け分野別説明会で実施 (○)</p> <p>(3) ア・「家庭への連絡や意思疎通がきめ細かい」の項目で 96%肯定回答 (○) イ・好意的な意見 (○)</p>
生徒と向き合う力	<p>(1) チームで生徒と向き合う ア・組織的、計画的なプランの策定と実施 イ・職員研修の充実</p>	<p>(1) ア・ステイタスシートによる適材適所の人事配置 ・QC サークルの活動の活性化 イ・タイムリーで計画的な研修実施</p>	<p>(1) ア・ステイタスシートの配布と随時面談の実施 ・QC サークルの集まり年間 10 回以上 イ・計画的な職員研修の実施</p>	<p>(1) ア・面談による聞き取りで十分であると判断 (△) ・QC は 12 月現時点で 4 回実施 (△) イ・人権に係っては LGBT に係る研修及び FW を実施。教育相談では SC によるカウンセリング技法を用いたコミュニケーションの研修を実施 (○)</p>